様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６７５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０３７３８

研究課題名（和文）「フードデザート」市場をめぐる既存・新規小売業態の競争プロセス分析

研究課題名（英文）An analysis of inter-type competition of retail format over Food Desert markets

研究代表者
横山　斉理（Yokoyama, Narimasa）

法政大学・経営学部・教授

研究者番号：７０４６１１２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、都心部に新たに発生したフードデザート市場をめぐる消費者を含めたプレイヤー間の競争（相互作用）の全体像の一端を明らかにすることができた点である。具体的には、小商圏における小売業者間の競争の帰結としての買い物客の顧客満足に関する定量調査を実施することで、都心のフードデザートにおける新規・既存小売業態を主役とした周辺産業を巻き込んだ競争がどのような顧客価値を実現したのかを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、小売業態が生成するプロセスにおいて新規・既存業態がどのように競争し、どのような顧客価値を生み出したのかを明らかにした点である。小売業態の生成については、既存研究ではいくつかの有力な説明がなされているが、その多くは事業者側にのみ焦点を当てている。その中で、顧客である消費者側の行動や認識も含めて業態の生成を議論する研究も生まれてきており、本研究はその延長線上に位置づけられる。具体的には、事業者間の相互作用とその帰結としての顧客満足に焦点を当てたことが本研究の貢献と言える。

研究成果の概要（英文）：The significance of this study was to explore the interaction between players that includes consumers. We focused on the customer satisfaction as a consequence of competition between retailers in a small business area. Quantitative analysis of factors affecting customer satisfaction was conducted and some important factors affecting customer satisfaction were identified.

研究分野：流通

キーワード：業態間競争　顧客満足　小商圏

１．研究開始当初の背景

小売競争はかつてないほど複雑になっている。その理由は第１に、チェーンオペレーションを採用することで小売業が大規模化したこと、第２に、消費市場が成熟化して多様化するのに合わせて多様な小売業態が生まれたこと、そして第３に、グローバル化に伴い小売業の国際化や外資系小売業の日本市場への進出が増えたことが挙げられる。従来の小売競争は、同じ商材を扱う商業者同士が競合していただけであったが、現在では、同業態のチェーン店同士が競争しているのに加え、異なる業態間同士でも同じ商材を扱うことで顧客を奪い合っている。近年では、駅ナカなどの特殊立地の店舗やインターネットショッピングが普及することで、小売競争を学術的に議論することがますます難しくなってきている。

以上の背景のもとで、市場（いちば）や商店街といった伝統的小売業の長期的衰退傾向に拍車がかかっている。同時に、大規模資本を背景にもたない独立系小売業者やリージョナルチェーンを展開する地元小売業者も、大規模小売商との差別化を強調できない場合は、小売市場から退出せざるを得ない状況が生まれている。その結果、都心や郊外部では、生鮮食料品を購入する店が身近にないエリアを指す「フードデザート」が生じ、自家用車や電子商取引に関するリテラシーといった買い物に必要な手段を持たない人々が買い物弱者となり社会問題化している。

２．研究の目的

本研究の目的は、フードデザート市場をめぐる新規・既存小売業態の競争プロセスに焦点を当て、そこで事業者がどう行動し、どのような相互作用が生じているのか、その結果、どのような顧客価値が実現しているのかを明らかにすることである。

近年、都心部や郊外部で発生しているフードデザートは、新たに出現した新市場とみなすことができ、この市場をめぐる小売業を中心とした事業者間の競争プロセスを分析することで、商業・流通における標準化の進展がどのような現実を生み出しているのか、その一端を明らかにすることができると考えられる。

３．研究の方法

本研究では 2 つの異なる研究アプローチを組み合わせる。ひとつはフィールド調査に基づく定性分析で、もうひとつは質問票調査に基づく定量分析である。

定性分析では、特定商圏において競合関係にある事業者にヒアリングを実施することで、競争によって生じる事業者間の相互作用を明らかにする。研究を推進するには調査対象エリアの選定が重要になるが、それには周辺人口や小売店舗の出店状況といった地理的データを整理して活用する。

定量分析では、多様な業態が競合関係にある特定の小商圏を対象に、消費者に対して店舗の顧客満足に関する質問票調査を実施し、競争の帰結の一つの指標として顧客満足に着目し、それ影響を与える諸要因を定量的に分析する。分析手法には、多くの学術研究が採用してきた統計的因果分析に加え、因果の非対称性や要因間の複雑な相互作用を考慮できる質的比較分析（QCA: Qualitative Comparative Analysis）も採用する。

４．研究成果

本研究の成果は、フードデザート市場をめぐる消費者を含めたプレイヤー間の相互作用の全体像の一端を明らかにすることができた点である。具体的には、小商圏における小売業者間の競争の帰結としての顧客満足に関する定量調査を実施することで、都心のフードデザートにおける新規・既存小売業態を主役とした周辺産業を巻き込んだ競争がどのような顧客価値を実現したのかを明らかにすることができた。

本研究の学術的意義は、小売業態が生成するプロセスにおいて新規・既存業態がどのように競争し、どのような顧客価値を生み出したのかを明らかにした点である。小売業態の生成については、既存研究ではいくつかの有力な説明がなされているが、その中で、事業者間の相互作用とその帰結としての顧客満足に着目する意義を指摘したことが本研究の学術的な貢献と言える。

顧客満足に影響を与える具体的な要因を定量的に明らかにしたことは、本研究の社会的意義すなわち実践的貢献と言えるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3　件）

①．横山斉理・尾形真実哉(2018)「マルチレベル分析を用いた店頭従業員の能力獲得に関する実証研究」、『組織科学』、第 51 巻第 3 号、pp.69-86。（3 月）

②．横山斉理(2017)「食品スーパーにおける顧客満足の規定要因：fsQCA アプローチ」、『組織科学』、第 51 巻第 2 号、pp.14-27。（12 月）

③．横山斉理(2016)「市場志向が小売店頭従業員の行動に与える影響―知識創造モデルに基づく実証分析―」、『商学研究』（日本大学商学部紀要）、第 32 号、25-43 頁。（3 月）

〔学会発表〕（計　6　件）

①. 横山斉理(2018)「経営現象の因果関係を探る新たな方法論：fsQCA―fsQCA（質的比較分析）を用いたスーパーの顧客満足の規定要因の研究―」『日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス 2018』@早稲田大学（発表＝10 月 14 日）

②. 横山斉理(2018)「流通・マーケティング研究領域における fsQCA の活用例」『日本商業学会「マーケティング夏の学校」』@関西大学六甲山荘（発表＝9 月 9 日）

③. 横山斉理(2016)「流通・マーケティング研究における質的比較分析（QCA）の適用可能性」『日本商業学会関東部会 9 月例会』@慶應義塾大学（発表=9 月 17 日）

④. 横山斉理(2016)「流通・マーケティング研究における質的比較分析(QCA)の適用可能性について」『経営学研究会』@法政大学（発表=7 月 22 日）

⑤. 横山斉理(2016)「食品スーパーの顧客満足の規定要因：MRA と fsQCA を用いた検討」『日本消費者行動研究学会』@関西学院大学（発表=6 月 18 日）

⑥. 横山斉理・尾形真実哉(2016)「店頭従業員の能力獲得に関する研究～外部要因を考慮したマルチレベル･アプローチ～」『2016 年度サービス学会第 4 回国内大会講演論文集』、(2016 年 3 月 28-29 日@神戸大学)

〔図書〕（計　2　件）

①. 横山斉理(2019)「チャネル戦略の基本―ユニクロ」、西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』、碩学舎、123-137 頁。(3 月 10 日)

②. 横山斉理(2018)「商業とまちづくり」、石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1 からの流通論（第 2 版)』、碩学舎、199-212 頁。(11 月 30 日)

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：柳　到亨

ローマ字氏名：Riyuu Douhiyon

所属研究機関名：和歌山大学

部局名：経済学部

職名：教授

研究者番号（8 桁）：00437451

研究分担者氏名：金　雲鎬

ローマ字氏名：Kim Unho
所属研究機関名：日本大学
部局名：商学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：10410383

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。